

No.142



昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
 ~人と技術が織りなす活力ある登米農業~

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
 TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
 E-mail : tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
 URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



地域の将来の姿を描く「協議の場」ワークショップ

地域農業の未来設計図「地域計画」について

総括技術次長 加藤 秀逸

近年、全国的に人口減少や高齢化が進行しており、農業分野においても、これらに伴う農業の担い手不足や耕作放棄地が拡大して農地が適切に利用されなくなることが懸念されています。登米地域においても、5年後10年後に地域の農地はだれが利用し、農地をどうまとめていくか、地域の農業をどのように維持・発展していくかを検討していく必要があります。

これまでも地域の農業を担う経営体を、「中心経営体」と位置付けて、地域農業の在り方を示した「人・農地プラン」を作成し、プランの達成に向けて取り組んでいます。国では、農地の集積や農業者の経営管理の合理化等を推進する「農業経営基盤強化促進法」を一部改正し、現行の「人・農地プラン」を、農業者や地域の皆様と話し合いを行いその結果を踏まえた

「地域計画」として令和7年3月末までに策定するよう、位置付けられました。

登米市においても、「地域計画」の策定に向けて、農業者の皆様などから多様な意見を伺う「協議の場」を設定しており、普及センターとしても、有意義な話し合いとなるよう支援を行っております。

生産の効率化やスマート農業の展開による農業の成長産業化に向けて、農地が利用されやすくなるよう、将来の具体的な姿を描いた「地域計画」は重要ですが、計画は作るだけでは意味がありません。

「地域計画」の達成に向けて、普及センターとしてもこれまで以上に、先端技術や経営高度化など、農業者の支援に取り組んでまいります。

プロジェクト活動の紹介

No.1 農地整備を契機とした地域営農体制の構築

農地整備を計画している古宿地区において、担い手の法人化や高収益作物の導入、農地集積・集約化など、「地域営農構想」の実現に向けた取組を支援しました。

○法人設立支援

農地整備事業に伴う担い手法人への農地集積・集約化に向けて、法人設立の動きを具体化するため、集落内の担い手の状況把握、将来的な就農に備えた後継者への支援を行いました。

○高収益作物作付支援

農地整備後の高収益作物導入に向け、令和4年から試験栽培をしている加工用ばれいしょについて、昨年に引き続き栽培技術支援、生育・収量調査等を実施するとともに、令和6年産の試験栽培に向けた改善事項の確認等を行いました。

○担い手会議等の開催支援

整備計画を進めるため、古宿区画整備協議会や地元説明会、地域営農構想の実現に向けて個々の担い手の役割を調整する担い手会議について、関係機関とともに開催を支援し、情報共有を図りました。



古宿地区で開催した担い手会議（11月）

No.2 加工用ばれいしょの栽培技術の向上

加工用ばれいしょの栽培技術向上により安定的に収量が確保されるよう、関係機関と連携し「登米ぼてと組合」の取組を支援しました。

○技術対策実践支援

個別巡回により、排水対策の徹底や生育に応じた追肥の実施、病害虫の発生状況に応じた適期防除の実施を促しました。また、一部のほ場で基肥不足や追肥過剰による生育不良が発生したことから、次作に向けて土壌分析結果に基づいた土づくりを支援しました。

○技術・経営評価支援

生育調査や比重調査、品質調査により、生育データ等の各種データを取得し評価を行いました。また、品質データについては要因分析を行い、次作以降の品質向上に向けて対策実施を促しました。

○組合活動支援

ばれいしょ生産支援に関する会議を開催し、組合員とJA、登米市、カルビーポテト株式会社、普及センターで支援体制の確認と次年度以降の取り組みについて意見交換を行いました。また、各組合員に今作の振り返りを促し、行った技術対策について、評価点と反省点の整理を促しました。



掘り取り調査（7月）

No.3 グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実践

「グリーンな栽培体系」（農薬、化学肥料の削減やプラスチック被覆肥料対策と省力技術のどちらも取り入れた栽培体系）の検証に取り組みました。

○減肥と収量性を両立するための施肥体系の検証

ペースト二段施肥技術により、窒素量を慣行（環境保全米）の約6割に減肥した展示ほを設置し、調査を実施しました。ひとめぼれの坪刈収量は574kg/10aで、収量、品質とも慣行とほぼ同等という結果となりました。

○生産者の選択肢拡大に向けた技術の検証

ペースト肥料以外に脱プラスチックに貢献できる肥料展示ほ（①ウレアホルム、②堆肥入り肥料+流し込み施肥）を設置し、ペースト肥料に準じて活動を行いました。坪刈り収量は584kg/10a（2展示ほ平均）で、収量、品質とも慣行とほぼ同等となりました。

○普及拡大に向けた情報発信活動

稲作部会での結果説明の他、JAみやぎ登米農地集積担い手協議会研修会でも取組を紹介し、「グリーンな栽培体系」に対する情報提供を行いました。



豊里地域で開催したペースト二段施肥田植機実演会（5月）

登米市農業士会視察研修会を開催

令和6年1月18日～19日に登米市農業士会の視察研修会が開催され、5人の農業士が岩手県花巻市で取り組むスマート農業を視察しました。

初日に訪れた花巻市農林部農政課地域農業推進室では、市によるRTK-GPS基地局設置の経緯や自動操舵システムやドローンなどによるスマート農業に関する施策と推進状況について担当者からお話をいただきました。

2日目には有限会社盛川農場を視察し、代表取締役の盛川氏より自社の経営内容やRTK-GPS基地局を活用したスマート農業の取り組み、所有する農業機械について説明をいただきました。

参加者からは、市を挙げてスマート農業のインフラ整備に取り組んだ取組や農業関係機関の連携体制などについて活発に質疑が行われ、スマート農業への理解を深めていました。



代表取締役盛川氏（中央）の説明

地域計画策定に向けたワークショップを支援しました！

登米市では地域農業の未来設計図となる「地域計画」を市内9地区で策定することとしており、第1回目の「協議の場」(ワークショップ)が11月14日～12月6日に、第2回目が1月16日～1月26日に実施され、普及センターではサブファシリテーターとして支援しました。

第1回目では広く参加者を募って地域農業の課題とその解決策を検討しました。第2回目では、土地利用型の大規模農家も加わり、10年後の効率的な耕作に向けた目標地図の原案を作成しました。

登米市では、2回の検討結果を「地域計画案」としてとりまとめ、来年度開催の第3回「協議の場」で広く意見聴取する計画としています。

普及センターでは、一人でも多くの農業者の意見が反映され、地域の指針となる「地域計画」が策定されるよう引き続き支援してまいります。



豊里町で開催されたワークショップ（1月）

登米市の元気ファーマー



なな おじょういちろう

れみな

七尾丈一郎さん・麗美奈さん（中田町 酪農、水稻）

七尾さん夫妻は、中田町で酪農と水稻栽培を行っています。丈一郎さんは千葉県出身で、高校卒業後は登米にいる祖父の酪農を継ぐため宮城県農業大学校に進学し、平成28年に就農しました。麗美奈さんは、宮城県農業高校を卒業後、研修及び雇用就農（酪農）を経て、結婚を機に丈一郎さんと共に酪農を経営しています。農作業は3年前から七尾夫妻で行っており、今年で就農9年目に突入しました。現在は、乳牛27頭と水稻8haで農業経営を行っています。

就農当初は課題ばかりの毎日でしたが、一つ一つ乗り越え、今ではその経験を経営に生かせるようになってきました。牛群検定の活用や昨年からはゲノム解析を取り入れるなど、積極的に経営改善を図っています。3年後に45頭まで増頭すること

を目指し、併せて水稻の栽培面積も拡大していきたいとのこと。

今後について尋ねると「地域の方たち、消費者、家族、牛たちに感謝を忘れずに、地域の繋がりを大切にしながら経営していきたい」と意気込みを語ってくれました。

高病原性鳥インフルエンザの発生を防ぐため、鶏舎へ野生動物の侵入防止と消毒を徹底しましょう!!

宮城県ぼてと生産者大会～受賞おめでとうございます！

令和6年1月12日（金）に宮城県ぼてと生産者大会が開催され、加工用ばれいしょ生産者、機械・資材メーカー、関係機関など72人が参加しました。

本大会は、宮城県を加工用ばれいしょの一大産地にするため、県内の生産者や関係機関などが一堂に会し、前作の振り返りと優良事例の紹介および表彰を通じて、生産者の意欲喚起と生産技術向上を図り、収量・品質の向上とさらなる面積拡大につなげるものです。

登米管内からは、団体部門登米ぼてと組合と個人部門有限会社ぐりーんずかみやまが産地功労章に入賞を果たしました。受賞された皆様にお祝い申し上げます。



有限会社ぐりーんずかみやま（中央）、登米ぼてと組合（右）



加工用ばれいしょの収穫

令和6年産稲作のポイント

令和5年産は異常気象により厳しい暑さの中での栽培となりました。宮城県における作況指数は105の「やや良」（東北農政局 令和5年12月12日公表）、1等米比率は82.9%（農林水産省 令和5年12月26日公表）と発表されています。登米管内における1等米比率は87%（令和5年11月30日時点）と、令和4年産に比べ10ポイント低くなりました。登米市の落等要因としては着色粒が最も多く、高温の影響で割れ粉の発生により籾殻の隙間から雑菌等が侵入したことや斑点米カメムシ類の発生時期と防除タイミングがずれたことで部分着色粒の発生が多かったことが要因と考えられます。また、一部の品種では収穫前に芽が出る穂発芽が発生し、品質低下に影響しました。

気象庁の暖候期予報（東北地方）では、今年の夏の平均気温は50%の確率で高くなると予報されています。令和6年産米の栽培は、以下のポイントに注意して取り組みましょう。

① 晩期栽培等による品質向上

晩期栽培や直播栽培、晩生品種の導入により、出穂期を遅らせ高温登熟の回避を図りましょう。なお、晩期栽培は播種時期を遅らせることが重要なので、下の表を参考に田植日から逆算して播種を行いましょう。

② 土づくりと適正施肥

良質堆肥や土づくり肥料の施用、深耕（耕深15cm）を実践し、地力を高め、稲体や根の活力を高めましょう。また、長期間の高温条件下では、地力の低いほ場では生育後半の葉色低下が著しく、収量・品質に影響します。必要に応じて追肥を行い、穂揃期の葉色を維持しましょう。

③ 適期収穫

近年、高温によって刈取り適期が早まる傾向がありますが、実際の刈取ピークは例年と大きく変わらないように見受けられ、刈り遅れにより品質が低下するおそれがあります。積算平均気温とあわせて、ほ場をよく観察し、籾の熟色や籾水分から総合的に判断し、適期刈取りに努めましょう。

令和6年産も品質の維持・向上に向けて栽培に取り組みしましょう。

堆肥（牛ふん）、土づくり肥料の施肥量の目安

土壌タイプ	完熟堆肥(t/10a)		土づくり肥料(kg/10a)	
	有機セター	自家製	ケイカル	ようりんケイカル13号
泥炭・黒泥土	0.8~1.0		(粒)ケイ酸30%、 苦土3%	(粒)ケイ酸2%、 苦土6%、リン酸6%
強グライ・グライ土	0.3~0.5	1.0~1.2	(砂状)ケイ酸32%、 苦土4%	(砂状)ケイ酸2%、 苦土6%、リン酸6%
灰色低地土		1.0~1.5	120~160	200
			80~100	160
			60~100	140

田植日から逆算した播種日の目安

苗の種類 (葉令)	乾燥籾(g) (僅芽籾(g))	田植日	田植日から逆算した播種日の目安	
			加温出芽	無加温出芽
稚苗 (2.1~2.5 葉)	160~180 (200~250)	5/10	4/20頃	4/15頃
		5/15	4/27頃	4/22頃
		5/25	5/11頃	5/6頃
中苗 (3.5~4葉)	100 (125)	5/10	4/10頃	4/5頃
		5/15	4/17頃	4/12頃
		5/25	5/1頃	4/26頃

春の農作業安全確認運動

4月1日~6月30日

『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』

○普及センターのLINE公式アカウント

農業技術や病害虫発生予察に関する最新情報、セミナー・研修会の開催案内などを配信しています。

